

「変わりゆく天候！ 最後に笑うのは！？」



3連勝で見事戴冠！！ おめでとう！ #15

2015K 耐久/GT 耐久東海シリーズもはやくも第4戦。事前の天気予報とは異なり、愛知県蒲郡市のスパ西浦モーターパークは朝からの雨、当然のごとく路面はウエット。しかしながら天候そのものは回復に向かっており、各チームのセッティング、戦略が見もの。

「1+2C」クラス（1500cc以下のNA車と、1200cc以下の過給機付き車、1501cc～1600ccのNA後輪駆動車のクローズドクラス）

今回の注目は初参加 HT81S スイフトスポーツ。初代は唯一の1500cc以下マシン、小型軽量を活かしてどこまでの走りが見られるか注目。上位勢は連勝で流れを掴んだ#15「シャトー・ラ・フィット」(GE型)をどこが止めるのか・・・はたまたこのままチャンピオン街道を走るのか。

■予選

ウエットの中予選トップは#70「トータルセブンシビック GT」1'08.150、久々の好位置発進で優勝を狙う。2番手は#21「ZEST ルブロススターレット」1'09.933、初優勝を狙った前戦は惜しくも2位、今回こそと闘志を秘める。

予選3位は#15「シャトー・ラ・フィット」1'10.897、ドライ向けのセットなのか、少し走りのリズムが良く無いように見える、連勝で迎える新王者候補にウイークポイント発覚か！？

4番手に初参加の#411「AITAC スイフト」1'12.226が、まずまずの位置につける。ドライコンディションに向かってどのくらいタイムを伸ばせるかも注目。

5番手は#77「トータルセブンロードスター」1'12.773、ウエットのFRでコントロール性が試される。6番手は開幕戦の勝者#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」1'12.876、7番手#67「CRAZY FORCE VEX デミオ」1'14.207、アンダーパワーのマシンたちはウエットでの上位進出のチャンス。

■序盤

スタート早々他クラスのマシンがターン1でコースアウト、まず最初のセーフティカー導入。多少混乱のあった最初のスティントでトップに立つのは#70「トータルセブンシビック GT」予選首位を守る。2番手争いは#21「ZEST ルブロススターレット」と#15「シャトー・ラ・フィット」。まだまだこの時点では路面はウエット、バトルの中にも慎重さが求められる。

それに続くのが#411「AITAC スイフト」、#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」、#77「トータルセブンロードスター」といったところ。7番手#67「CRAZY FORCE VEX デミオ」は早めのピット戦略のようだ。



惜しい！2位 #70



オリジナリティのあるマシンで初表彰台 #67



初参加は4位 #411

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

中盤でもまだまだぬれた路面が続く、そんな中首位を守るのは#70「トータルセブンシビック GT」、久々のトップ快走。2位以下を引き離しにかかる。スタートからほぼ1時間経過した頃#21「ZEST ルブロススターレット」がターン1でコースアウト、戦列復帰はなったものの大きくポジションダウン。

かわって上位に上がってきたのが#411「AITAC スイフト」、#67「CRAZY FORCE VEX デミオ」、アンダーパワーなマシンだが、ウエットコンディションを利用して、表彰台圏内で大健闘。

本命の#15「シャトー・ラ・フィット」は現在5位、どこまで上がれるか。このレースによってはシリーズチャンピオンが決定する。



雨のFRで奮闘 #77

■終盤

レースものこり1時間、路面はドライに。トップは依然として#70「トータルセブンシビック GT」79Lap、2位にはいよいよ一周回まで追いついてきた#15「シャトー・ラ・フィット」。3位は#67「CRAZY FORCE VEX デミオ」が78Lapで踏ん張る。4位は#411「AITAC スイフト」75Lapでこちらもまだまだ上位進出を狙っている。5位#77「トータルセブンロードスター」73Lap、6位#21「ZEST ルブロススターレット」73Lap中盤のコースアウトから挽回して、この位置。7位は#コースアウトを喫し、セーフティカー出動となった#11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」が64Lap。



6位でシリーズタイトル追いつけず #21



こちらもコースアウトは痛かった #11



シリーズ争いに決着！



Race Report

GT-CAR PRODUCE

■最終結果

トップ 2 台のバトルは#15「シャトー・ラ・フィット」が#70「トータルセブンシビック GT」をかわして決着、3 連勝ハットトリックを達成。シリーズ争いに終止符か。

久々の優勝を狙った#70「トータルセブンシビック GT」だったが、残り 1 時間弱を粘れず惜しい 2 位。そして 3 位には#67「CRAZY FORCE VEX デミオ」が、粘る #411「AITAC スイフト」を振り切って初のポディウムへ。#411「AITAC スイフト」は惜しくも 4 位。

5 位は#77「トータルセブンロードスター」、6 位は中盤のコースアウトが響いた #21「ZEST ルブロスターレット」、7 位は同じくコースアウトが痛かった #11「アンリミテッド DXL ヴィッツ」というリザルトで全車完走。



■総評

久しぶりのウエットとなった今大会、路面状況とレース模様が目まぐるしく変わる中、#15「シャトー・ラ・フィット」が見事 3 連勝、シリーズ 2 位の #21「ZEST ルブロスターレット」が 6 位に終わったことで、最終戦を残して #15「シャトー・ラ・フィット」が初のシリーズチャンピオンに輝いた。

昨年のデビューから、今年の初優勝、そしてチャンピオンへと、まさに出世魚のような上りっぷりは見事。その一方で、今シーズン初となった雨のレース、予選や序盤の走りを見る限り、ウエットには少し厳しい面があるのかなとも思え、ライバルたちのつけ入るすきがあるようにも見える一戦だった。

そのライバルでは、とうとう #67「CRAZY FORCE VEX デミオ」が表彰台。マイナーな車種ながら(失礼)、創意と工夫で作ってきたマシンが、ウエットを活かしてイキイキと走っていたのが印象的。ドライのラップタイムはトップから +1.5 秒だが、まだまだ伸びそうな予感のする走りっぷり。

同じく気になるマシンの #411「AITAC スイフト」。初代のスイスポは軽さが命、そして唯一の 1+2 クラスマシン。ちなみにレース中の最速ラップは 6 秒台前半、今後の動向に注目。

チャンピオンは決まったが、まだまだアツい戦いが続く 1+2 クラス、最終戦もお楽しみに。





見事チャンピオン！！ #87



予選から好調で2位フィニッシュ #106



こちらも久しぶりのポディウム #111



お帰りなさいで4位 #56



初参加で雨 見事完走！！ #8

「3C」クラス（1501cc 以上のNA 車と、1201cc 以上の過給機付き車のクローズドクラス）

開幕からシリーズ首位を走る#87「IDI NUTEC SYCシビック」に待ったをかけるべく、4時間戦で優勝した#110「アライメント浜松チーム」。しぶとく表彰台に残った#62「WN ワコーズCLNシビック」。今回#450「トルネオの大冒険」が欠場のため、状況によってはシリーズチャンピオンが決定する。

それら上位陣争いに加え、久々出場の関西の有力チーム「岸本レーシング」、同じく北陸の雄「ヒロエンタープライズ」、さらに初出場の「チーム111レビン」の走りっぷりにも注目。

■予選

今回の予選トップは#110「DXL アライメント浜松レビン」が1'05.109で全体のPP、雨の中見事にタイムを刻んだ。その横に並ぶのはシリーズトップを行く#87「IDI NUTEC SYC シビック」1'05.594、はやくも火花が散る。

予選3番手は#106「D&M スパイクオート 106」1'07.751、久々の上位発進。ウェット路面を活かして決勝でもかき回したい。4番手は#62「WN ワコーズCLNシビック」1'07.77、シリーズ争いのためにはここで離されてはいけない。5番手に#52「ヒロエンタープライズ DC2」1'09.004、鮮やかな青いカラーリングはお馴染み、久しぶりの参加だ。6番手#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」1'08.834。

7番手#56「小田川 MMS 岸本 RST シビック」1'15.552、かつてAA型カルタスなどでこの東海シリーズなどでも活躍していた岡山の名門チームがこちらも久しぶりに参加。

予選最後尾は#8「チーム111レビン」1'21.261、初参加チームで、これでこのクラス3台目の111レビン。

■序盤

ローリングスタート直後のターン1で#62「WN ワコーズCLNシビック」がコースアウト、いきなりのセーフティカー導入となる。#62は自走にてピットまで戻れたものの、その後リタイヤとなってしまふ。

トップ争いはし烈#87「IDI NUTEC SYC シビック」と#110「DXL アライメント浜松レビン」が順位を入れ替えながら、周回をこなしていく。

それに続き上位進出を狙うのは、#52「ヒロエンタープライズ DC2」、#111「S' tecAE-1 ファジーレビン」、#56「小田川 MMS 岸本 RST シビック」あたり。久しぶりのチームたちもコースを思い出したのか、ペースを掴んでいる。新規参加の#8「チーム111レビン」も同様で、リズムを上げてきた

#106「D&M スパイクオート 106」は早めの仕掛けでピットインか。雨足と路面の状況によってはまだまだどう転ぶかわからない。レースは始まったばかりだ。

Race Report

GT-CAR PRODUCE

■中盤

折り返しの1時間半、雨もやみ路面はところどころ乾いてきた。#110「DXL アライメント浜松レビン」は65Lap。#87「IDI NUTEC SYC シビック」が64Lap、#106「D&M スパイクオート 106」64Lap、#56「小田川 MMS 岸本 RST シビック」61Lap、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」116Lap、#52「ヒロエンタープライズ DC2」61Lap、#8「チーム 111 レビン」55Lapといった順。トップグループは差が開くどころか、ますます混戦となっている。

注目は3位につける#106「D&M スパイクオート 106」、ドライ路面では、国産スポーツハッチ、特にシビック、にはパワー的においていかれる局面があるプジョーだが、ウエットではそのハンディも解消、まさに水を得た魚のように上位を快走。ドライとなってくる後半戦、この好調を維持できるか。

■終盤

ここまでトップを争ってきた#110「DXL アライメント浜松レビン」だったが、痛恨のコースアウトでセーフティカーを導入させてしまう。レースには復帰できたが、トップ争いからは脱落となってしまふ。

これでトップに立った#87「IDI NUTEC SYC シビック」に今回好調の#106「D&M スパイクオート 106」が食らいつき、まだまだ最後までわからない状況。

表彰台争いも白熱、#56「小田川 MMS 岸本 RST シビック」、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」116Lap、#52「ヒロエンタープライズ DC2」がほぼ同一周回で廻り、抜け出すチャンスをうかがう。

後方ではレースに復帰した#110「DXL アライメント浜松レビン」が一つでも順位を上げようと懸命の走り、同じレビンを駆る#8「チーム 111 レビン」との争いを繰り広げている。



タイトルには届かず #110



残念 完走ならず #52





タイトルのゆくへは



■最終結果

スタートから波乱のあったこのレースを制したのは#87「IDI NUTEC SYC シビック」、粘る#106「D&M スパイクオート 106」を45秒差で振り切ってシーズン3勝目！そして総合優勝のおまけつき！さらにはライバルチームの動向によっては年間チャンピオンとなる。

2位はウエットだけでなくドライでも健闘した#106「D&M スパイクオート 106」、久しぶりの優勝とはうななかったが、その可能性も十分にあった。

そして3位は、こちらもウエットを活かして久しぶりのポディウム登壇となった、#111「S'tecAE-1 ファジーレビン」。

4位は#56「小田川 MMS 岸本 RST シビック」、久しぶりの西浦を堪能していた。

5位は#8「チーム 111 レビン」、初参加で見事完走。6位は#110「DXL アライメント 浜松レビン」、中盤のコースアウトが痛かった。

#52「ヒロエンタープライズ DC2」は最終盤での白煙ストップと義務ピットイン回数不足で章典外となった。

■総評

シーズン3勝目でポイントを85Pまで伸ばした#87「IDI NUTEC SYC シビック」に対し、6位に終わった#110「DXL アライメント 浜松レビン」が50P、リタイヤした#62「WN ワコーズCLNシビック」が49P、今回2位に入った#106「D&M スパイクオート 106」も49Pとなり、#87「IDI NUTEC SYC シビック」のシリーズチャンピオンが決定した。

今シーズンで落としたのは、第3戦のみ、しかもそのレースではしっかりと2位をキープするという安定した戦いぶりで見事に年間王者に輝いた。

のべ出走台数が最も多かったこのクラス、車種もバラエティに富んでおり、輸入車、セダン、FRスポーツカー、オープンなど”さまざまに楽しめる”を具現化したクラスであった。





最終戦を残して王座に！！ #44



自己最高位の2位 #16



今シーズン3回目の3位 #58



残念 完走ならず #75



「OP」クラス（排気量区分なしのオープンクラス）

シリーズランキングでトップを行く#44「剛式レーシングシビック」が65P、そして2位の#19「YADOKARI シビック」が55Pと10P差で迎えた第4戦。今回の結果によっては#44「剛式レーシングシビック」のチャンピオンが決まるという大事なレースとなる。

今回はタイトルを争う両チームに加え、#16「そらそうよシティ」と#75「シーワン N チームシティ」のシティ対決、#58「小林板金 EG6」のシビック対決となる計5台が出走。ちなみに全車ホンダ車だ。

■予選

予選トップは#44「剛式レーシングシビック」1'05.888、チャンピオンへのスタートとなるか。#19「YADOKARI シビック」は1'06.940、決勝での逆転を狙う。3番手#16「そらそうよシティ」1'09.099、4番手#58「小林板金 EG6」1'09.475、5番手#75「シーワン N チームシティ」1'17.251 となり全車決勝へ。

■序盤

戦前の予想通り、序盤から#44「剛式レーシングシビック」と#19「YADOKARI シビック」がバトル。少し置いて他のチームが追いかけるという展開。3番手以下は、3番手#75「シーワン N チームシティ」、4番手#16「そらそうよシティ」、5番手#58「小林板金 EG6」という順位。

■中盤

トップ2のバトルに中盤で波乱が起きる、#19「YADOKARI シビック」がコースアウト。セーフティーカー導入。マシンは修復不能となり、チームはリタイヤを選択。この時点で#44「剛式レーシングシビック」が完走すればタイトル決定となる。ただし、こちらもノーポイントの場合は最終戦へと持越した。2位には#16「そらそうよシティ」が上がり、3位は#58「小林板金 EG6」、4位#75「シーワン N チームシティ」と続く。



優勝もタイトルもオイルもいただき



Race Report

■終盤

トップ独走となった#44「剛式レーシングシビック」は、このままチャンピオンへの道を進むか。2位には6Lap差で#16「そらそうよシティ」、3位は#58「小林板金EG6」。#75「シーワンNチーム」はマシントラブルなのかと思うように周回が重なられていない。

■最終結果

結果的にライバル不在となった#44「剛式レーシングシビック」が優勝。20Pを加えシリーズチャンピオンを決めた。

2位には#16「そらそうよシティ」が自己最高位の2位で初めての表彰台、3位は#58「小林板金EG6」が今シーズン3回目の3位表彰台を獲得。

残念ながら#75「シーワンNチーム」は規定周回数をクリアできず、完走とはならず。

■総評

第3戦のマシントラブル・第4戦のコースアウトによって#19「YADOKARIシビック」がチャンピオン争いから脱落してしまったが、#44「剛式レーシングシビック」はここまで全戦で優勝か2位かということで、新王者にふさわしい走りを披露した。



コースアウトで無念 #19

